

Real Conservation 第2回勉強会

2019年7月26日（金）19:00-21:30 @早稲田大学

参加者：草刈・羽澄・板垣・井田・山田・葉山・辻村・真田・小松原・宮原・遠山・神山（敬称略・順不同）

1. RCの紹介・勉強会の目的（草刈）

- ・本来あるべき自然保護論を残して行く為の組織・プラットフォームとして、6月5日に設立
- ・他のNGOがやっていること以外のことをやる
- ・イシューごとにタスクフォースを作るため、課題を洗い出し、生態系を基軸とした社会の実現という考え方で、アプローチを見出すために勉強会を開催することになった

2. プレゼンテーション「21世紀日本のワイルドライフ・マネジメント-課題とSDGs的解決法を考える-」（羽澄）

*羽澄さんより提供の別添資料をご参照ください

3. ディスカッション

遠山	元同僚が会津に帰ってクマ撃ちになった理由がわかった。
羽澄	今は補助金頼りだが、若い世代が変えていかないといけない。行政も機能不全・思考停止に陥っている。疲弊している。社会として由々しき事態に、生態系を基軸にして考える、その先頭を切って走っていくのは若い世代。
遠山	YouTubeで配信してはどうか？
羽澄	良いと思います
井田	国が動くのを待っていても仕方がない、自治体を動かす。バイオスフィアを基礎として、その上に社会がある。その事例を作っていく。プラスチックをもっと使うと良い。
羽澄	環境整備の竹や植物の刈り払いが毎年必要。その資源利用ができると良い。ノウハウを持っている研究者を呼びたい。個別の問題に向き合う地域の方も大事だけど、社会全体のフレームを変えない限りキリがない。
井田	大学フィールドバイオロジーやる人がいない。研究者がいない。
羽澄	外国人を招聘するのも一案。
葉山	人口減少を逆手に取るのも良い。人間と自然の軋轢が減る？
羽澄	逆に軋轢は増える。さらに人畜共通感染症が増える。
井田	リスクがないと企業も政府も動かない。NGOはもっとリスクを使えば良い。

山田	マダニ媒介性ウイルス感染症 (SFTS:重症熱性血小板減少症候群) が西日本を中心に 23 府県に広がっている。シカ・イノシシの増加や分布拡大がダニを広げ、人間の生活圏に野外のイエネコやアライグマなどの外来生物が運んでくる。輸入コンテナに便乗したイエネコなどもあり、狂犬病の感染も危惧されている。人口減少も大きな問題だが、野生動物の分布拡大や外来生物の増加による感染症による健康被害のリスク増加に人々も危機意識を持って欲しい。ペット産業・獣医師・動物愛護の方で危機意識はまだ低い。
遠山	府中にイノシシが出ていると聞き、怖いと思う。
辻村	東京にも、府中・多摩など良いグリーンベルトがある。
辻村	自治体が良い動きをすると、国は褒めるけど、国の力は落ちている。国会のバリアフリーが必要。
井田	与党の中でちゃんとした政治家を育てないといけない。メディアの教育も必要。
山田	外来種も拡大している。生態系を基軸とした社会の実現の考えが必要。動物愛護の方でそれに反する考えの事例がある。
羽澄	一般の人たちがそういう思考になるきっかけがない。学校教育でやっても根付かない。プラ問題のように直接的な問題になると危機意識が違う。
山田	ダニ問題は使える。県別の SFTS 感染数マップもある。
辻村	難しいのは、「うちの犬猫は違う」となってしまう。日本の三大 NGO がきちんと発信する必要がある。
草刈	山田さんのシンポジウムなどで、今日話したような将来図を話してみても？
羽澄	(生態系を基軸とした社会の実現という考え方は) 真新しいものではなく、現場に落とし込めていないだけ。社会経済的な観点からの議論をパッケージにする必要がある。
井田	環境省の環境白書に記載。下川町*
板垣	トキソプラズマは医者から妊婦に注意喚起されるから、認識はあるのでは。
井田	ヘルスリスクの強調をするのが良いのでは。
山田	輸入コンテナに紛れ込んでくる生物はネコが多く、狂犬病汚染地域からの個体もいる。日本の港だけでなく内陸に入ってからコンテナが開けられることもあるから、内陸で狂犬病感染の可能性もある。バイオセキュリティ対策が必要。アメリカの事例だと、ハワイ州でマングースのバイオセキュリティ対策を検討中。発送する側で対応してくれない国もある。
辻村	入口・出口、両方の国での対策が必要。

山田	動物を介した病気・問題が今後ますます増えてくる。
神山	狩猟免許を取ったが猟には出ていない。入管法 14 業種で外国人を招き入れる準備が整いつつある。漁業・農業はあるが、林業はない。逃亡しない・安全に暮らせるという面で、林業は安全性が確保できないために解禁されなかった。兼業・ワークライフバランス、働き方改革と言っているが、実際のところ実現できるのか？現場で回していく人を作るときに、進学率は上がったが、大学に来てどうするのだろうという学生も多い。農業高校、工業高校を 3 年制から高専のように 5 年制にするなど、現場を回す人を要請することを、国を上げてやっていく必要がある。
羽澄	学部出た人が現場に出て、もう一度学び直す。学部出ただけでは使い物にならない。一度社会に出て、自分で学ぶものを本当に見出した時に意味が生まれる。急がなくても良い。行政の中心で動かすような人は、経験を積んで 40 代にならないとできない。
辻村	教育を変える必要がある。大学がトップで、専門がその下という仕組み・ステータスを変えないといけな。ドイツはすごく良い。専門性の違いによって課程が変わる。
羽澄	教育全体のシステムについて誰かに話してもらいたい。
辻村	日本ではプロを要請する教育ではない。
遠山	高専出身。キャリア転向するとなった時に、取っ掛かりがなく難しい。スキルは溜まっていくが、資格がない。
辻村	教育の構造に加え、リスタートするという日本には発想がない。
板垣	文系出身だと自然保護の仕事に就く間口が狭い。
神山	SDGs・ESG 投資は気候変動・エネルギーに偏っている。
井田	環境省の若手には危機感を持っている人もいる。

*下山町

- ・環境白書 <http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r01/pdf/2_6.pdf>
- ・EPO 北海道 HP より抜粋「白書では先進的な事例が多数、掲載されており、そのひとつとして北海道下川町の森林資源の活用事例が紹介されました。環境省は、地域におけるお金の流れを様々な経済指標で「見える化」して地域の産業や経済の全体像を把握するものとして「地域循環経済分析」ツールを作成、無償提供しています。下川町もこのツールを取り組みに活用しています。」<<https://epohok.jp/act/info/9837>>
- ・環境モデル都市下川町
<<https://www.town.shimokawa.hokkaido.jp/kurashi/kankyo/kankyoku/kankyocity/index.html>>

4. 次回のプレゼンター候補

金沢大学の撤退の撤退の農村計画の研究者。辻村さんがお声がけをして、日程調整をする。